

重点実践事項の具体的方針

知

確かな学力の向上

確かな学力が身につけている生徒を育む

- 1.令和元年度県web・到達度調査各教科平均正答率が3.5ポイント県平均を上回る
- 2.令和2年4月実施全国学力調査平均正答率が全国平均正答率に並ぶ実現をめざし、

- ①学習規律遵守の徹底(全教科共通の規律の設定(チャイム前着席及び黙想、無言挙手、学習用具揃え、机・棚の整理等)各教科学習規律の徹底)を図ります。校区内小学校と連携し、那覇中校区小中一貫事業「学習規律」事項を実践し、学力向上につなげます。
- ②「なは授業づくり(各教科ガイダンス、毎時間のねらい・振り返りの確実な時間設定と実施、構造的板書等)」に基づき、学習指導要領の目標、内容の実現をめざし、「知識・技能」を確実に習得させる授業を実践します。さらに、これらを活用して「思考力、判断力及び表現力の能力を育むこと」をめざし、全教科で「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動の強化・充実」を実践します。全職員が1回以上の「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の授業を公開します。
- ③各種検定の奨励及び教科課題と連動した家庭学習習慣の確立から学習意欲の向上を図ります。
- ④「各教科等による図書館利活用の実践」及び「全分類読破を含む年間目標読書冊数40冊以上」の実践から、図書館利活用充実による学力向上をめざします。
- ⑤日々の学びが実社会とつながっていることを実感させるキャリアの視点を踏まえた授業実践、ガイダンスの充実及び職場体験活動等を通して「なりたい自分」と「なれる自分」を広げます。

徳

豊かな人間性

思いやりのある生徒を育む

- 1.規範意識の向上
- 2.自己有用感の向上をめざし、

- ①校内生徒指導・支援体制、教育相談体制を確立(共感的理解と毅然とした対応の共通理解)し、生徒の指導・支援、ケア、対応の充実を図ります。関係機関との連携行動(夜間巡視の充実、各機関との定例会合の確実な実施)を充実します。小中一貫事業「定例生徒指導部会」を校区内小学校と定期的に実施し、生徒支援の充実に努めます。
- ②道徳科を要とし、教育活動全体を通じて行われる道徳教育の重点を「規範意識の向上及び礼節、感謝、思いやりの心の育み」とし、豊かな心(心をカタチにする)を育みます。「立ち止まり心をこめたあいさつ」を実践します。
- ③人権教育の充実、「いじめについての定期アンケート」及び教育相談相談活動実施を通して、人権感覚を高め、いじめを許さない学校づくりを進めます。
- ④ボランティア体験活動、職場体験活動、小中一貫事業「交流活動」及び地域行事参加等の豊かな体験活動を推進します。ボランティア体験活動は、全生徒が年1回以上体験するよう支援し、自己有用感の向上を目指します。
- ⑤日々の清掃活動(無言清掃)を充実するとともに、分担区に、生徒名簿を掲示し、自覚と達成感の高揚を目指します。きれいな学校づくり(整然とした学舎)を生徒教師双方で進めます。

体

健やかな体

健康でたくましい生徒を育む

- 1.健康に係る自己管理能力の向上
- 2.持久力向上(全国平均に並ぶ)ことをめざし、

- ①健康(安全)の増進に関する自己管理能力を高める指導を推進するとともに、学校保健体力向上委員会の充実を図ります。
※推進重点→(喫煙、飲酒、薬物乱用、性教育について、各教科等と連携し指導する)
- ②新体力テストの結果、分析から運動能力向上(特に持久力向上)に努めます。
- ③生徒が安心・安全で自己実現できる学校となるべく学校安全・防災教育の充実を図ります。
- ④年2回基本的生活習慣に係るアンケート結果を活用し、個に応じた支援を行います。
(重点事項 朝食摂取率の向上 早寝早起き朝ご飯運動実践による生活リズムの確立)
- ⑤部活動は、目標管理に基づいた部活動の実施及び好ましい人間関係づくりを構築します。
休養日や活動日を適切に設定し、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮します。

令和元年度

3学年
学年目標

知 確かな学力を身につけ、夢や目標の実現を目指し常に学び続ける生徒を育む

徳 自らを律する力を身につけ、自覚を持って学校づくりに貢献する生徒を育む

体 自他の生命を尊重し、将来にわたり健康で安全な生活を実践できる生徒を育む